

伝える極意

一番重要なのは「おもてなし」の心。想いを伝えるためには相手への好感度を上げていくことが大切です。

好感度は「視覚的要素」55%「聴覚的要素」38%「知識」7%という法則(*)があるといわれています。 ※メイラビアンの方則

① 第一印象「見た目」が大切

会った時の3~5秒で第一印象がきまるといわれています。聞き手に親しみやすさをもってもらえるよう2つの事を心がけましょう。

「笑顔」…目元を優しさが大事。口角を上げる運動も日ごろから練習しておくとう自然の笑顔がこぼれます。

「正しい姿勢と服装・髪型」…猫背はだめです。元気よく、胸をはりましょう。服装・髪型はTPOが大切。その場の雰囲気配慮していきましょう。



② 相手にとって気持ち良い「音」

高齢の方には落ち着いた声でゆっくり、子どもには高い声で快活に話すなど相手に合わせてトーンやテンポを変えられるようにしていきましょう。

「トーン」…最初の一声のトーンで印象は変わります。通常の話し方の声よりも、低い声、高い声が出せるようになるように日ごろから練習しましょう。

「テンポ」…相手の話し方のテンポに合わせて信頼性が高まります。



③ 相手が興味を示す知識や内容

一方的な話しでは相手は話を聞いてはくれません。話すことに一生懸命にならず、わかりやすい言葉や単語を使って伝えましょう。

「観察」…相手は何を知りたいのか、何に興味があるのかを対峙しながら観察し、知りたい情報を提供します。また否定的、自虐的な言葉を使わず、ポジティブな言葉遣いを心がけましょう。



おもしろいですね!

こんな良いことがあるといいですね!

興味か'あ'り'は'ん'です'ね'!

お問合せ

須走まちづくり推進協議会 事務局 小山町役場須走支所

小山町須走267-6小山町役場須走支所内

TEL 0550-75-2211 Fax 0550-75-4107 URL <http://subashiri-fujisan.com>

素晴らしい須走を知りたい! すばらしり隊*ドリル

須走 富士山巡拜の道

初級編

ドリルで練習して
須走のことを語れる人になるのじゃよ

縄文時代から人が行き来し、
幾度となく噴火する
富士山とともに歩んできた須走。
この須走を学べるドリルです!



すばらしり隊の守護神
須走口太郎坊の天狗様

主催 須走まちづくり推進協議会

文化庁 令和元年度 文化庁文化芸術振興費補助金(文化遺産総合活用推進事業)

富士山・須走口登山道

古来より「神が宿る場所」と信じられていた富士山。富士山を学ぶと須走がわかります。

須走からの富士山を見たい→

須走富士浅間神社からみち富士山
<https://youtu.be/U3y0UI2dYuc>



富士山ってどんな山?

イラスト富士山姿図写真参照

「活火山」の山です。高さは3776m、山頂の平均気温は-6°Cで8月でも6°C前後で環境の厳しい山です。山頂の気圧は約650 hpaで水が約90°Cぐらいで沸騰します。

★ 標高が100m上ると0.5°C~0.7°C気温が下がり、風速が1mごとに体感温度は1°C下がります。



世界文化遺産に登録された「信仰の対象」ってどういうこと?

富士山は古来より神が宿る山と信じられていました。高く美しく、繰り返し火を噴く富士山は人々にとっては神秘的で、畏怖の対象でした。この日本人の自然感が認められ2013年(平成25年)に25箇所の構成資産とともに世界文化遺産に登録されました。

★ 構成資産とは「信仰の対象」「芸術の源泉」の価値を具体的に証明できる場所の事。須走では「須走口登山道」「須走富士浅間神社」の2か所です。



須走口五合目の標高は?

1960mです。他の登山道五合目は御殿場口1440m、吉田口2300m、富士宮口2400mです。同じ五合目でも異なります。

須走口五合目はふじあざみラインが開通する4月下旬から11月上旬までは、小富士やまぼろしの滝の散策ルートを楽しめ、ご来光、山中湖から相模湾、伊豆半島、駿河湾までの眺望が楽しめます。

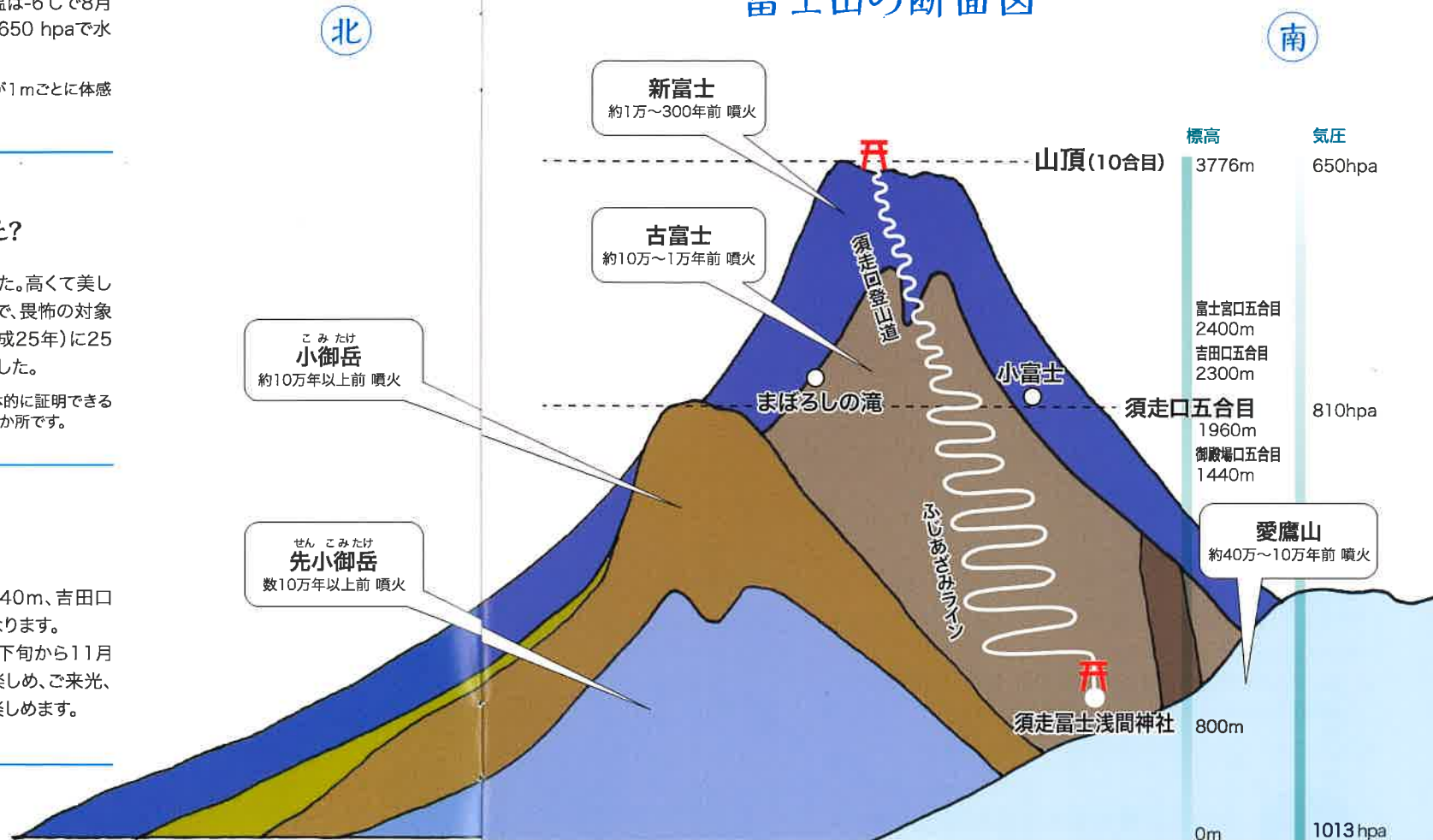


須走口登山道の起点は?

東口本宮富士浅間神社(通称須走富士浅間神社)です。登山道は、旧六合目付近から1384年の銘が入った懸仏かけぼとけが出土したので、鎌倉時代の末期には開かれた道とされます。

★ 須走口登山道は、合目ごとに神社があったことが特徴の1つでした。これらの神社は五合目の古御嶽神社に合祀されています。

富士山の断面図



↓ 駿河湾

↓ 相模湾

富士山・須走口登山道

古来より「神が宿る場所」と信じられていた富士山。富士山を学ぶと須走がわかります。

巡拝の道を歩きたい⇒
 富士山須走口
 足柄峠～須走口五合目R1年
<https://youtu.be/nw20hzYAIBE>



須走口登山道の特徴は？

7合目付近まで樹林帯が続き、かつては合目ごとに神社がありました。五合目の古御嶽神社にはそれより下にあった御室浅間神社、雲霧神社が合祀されています。六合目の胎内神社、九合目には迎久須志神社があります。八合目で吉田口登山道が合流してきます。上りの登山道と下りの登山道の2種類あるのも特徴の1つです。

鎌倉時代末期からあったといわれる須走口登山道に吉田口登山道が加わってきたのは近代に入ってからだといわれています。



ようはい とはい 遥拝・登拝とは？

遥拝は「遠くから拝むこと」登拝は「登りながら拝むこと」です。

富士山は古来よりその美しさと尊さから自然崇拜、山岳信仰を代表する山でした。昔は火をふく恐ろしい山だったので人々は遠くから拝みました。江戸時代、一般の人でも富士山に登れるようになると富士山の御神徳を感じながら登るスタイル「登拝」が確立されました。



馬返とは？

馬返しは神様の領域である富士山と人間が住む俗世との境界場所です。昔はここまで馬で登ることができました。

ここからは神様の領域なので登山者は、履物を履き替え、身なりを整えてから登りました。



女の人が富士登山はできなかったの？

古来日本では富士山をはじめ信仰のある山は女人禁制でした。

須走口登山道では、御室浅間神社の付近に女人堂があり、女性はここより上へは上れません。女性の登山が解禁されたのは明治5年(1872年)です。

25歳の富士講信者「高山たつ」が男装して1833年に登っています。尾張藩の奥女中、高山右近の直系親族であったたつは登頂後、富士山への女性登頂の道に尽力しました。



須走富士浅間神社・富士講

神社とともに歩んできた須走。須走の最盛期は富士講の修験者が多く訪れていた時代です。

神社の映像は⇒
須走 富士浅間神社
https://youtu.be/4VulgEfx_f8



須走富士浅間神社はいつできた?

延暦21年(802年)富士山が噴火し、鎮火の祈願を齋行しました。大同2年(807年)、噴火がおさまったため、その跡地に神社を建立しました。
神門、参道、社殿は富士山に向かっては一直線に配置されています。浅間神社の本殿は、2007年、平成19年に改修されています。



浅間神社の神様はだれ?

富士山と桜の花の神、木花咲耶姫命を祀っています。また、土地の開拓、国土建設の神様大己貴命、木花咲耶姫命が産屋に火放ってお産をしましたが、その火が鎮まった時に生まれた鎮火の神、稲穂・穀物の神の彦火火出見命が祀られています。



木花咲耶姫命の神使は?

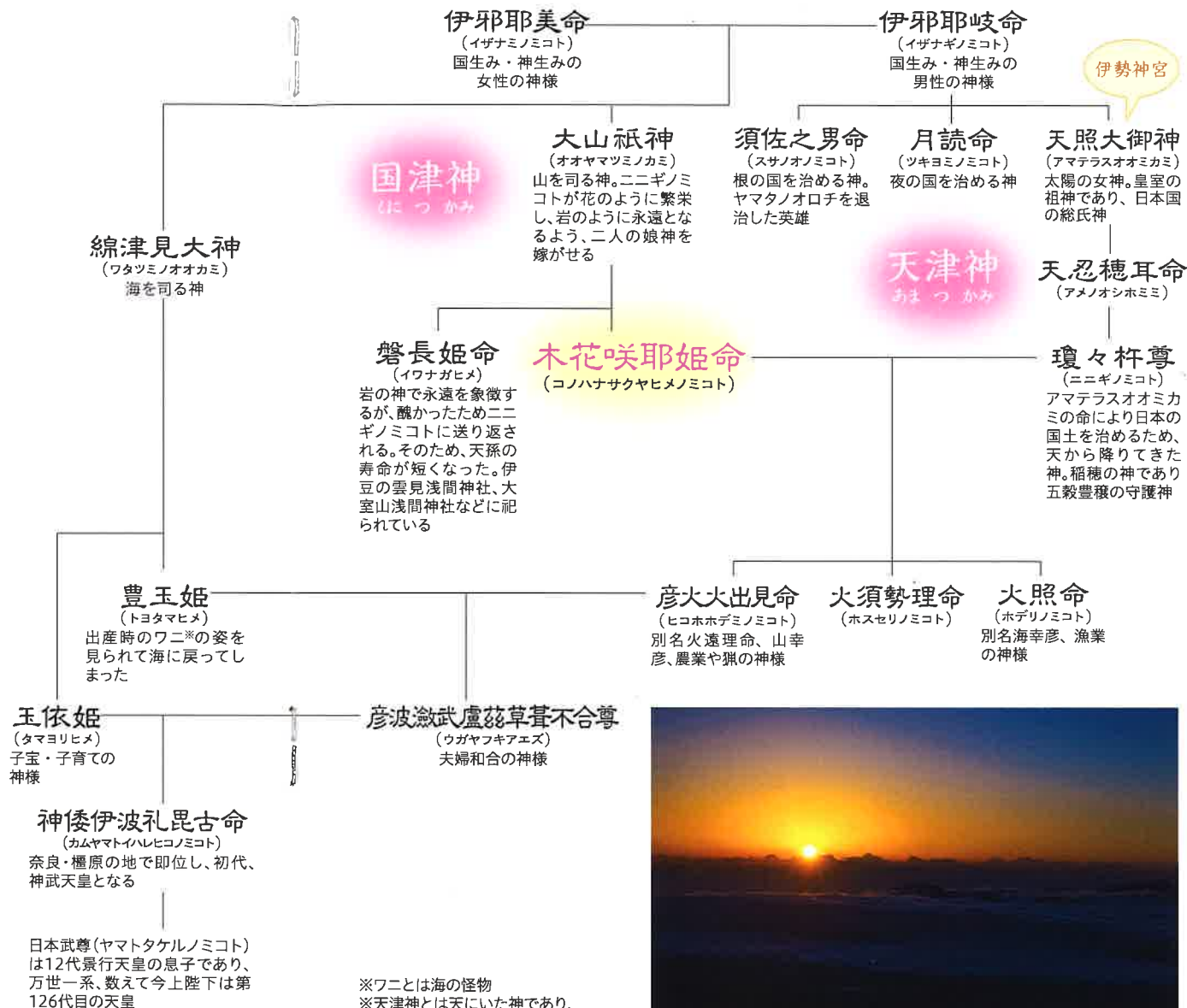
申です。神使とは神様のお使いの者のことです。富士山は申の日に現れ、噴火が収まったといわれています。申年、特に庚申年に登るとご利益が高くなるといわれています。



浅間神社は全国にあるの?

全国に1300社があります。富士山が見える静岡、山梨、関東圏が中心にある神社で、全て「コノハナサクヤヒメ」を祀っています。頂点は富士山本宮富士浅間大社(富士宮市)、新宮は静岡浅間神社(静岡市)です。
世界遺産構成資産の他の浅間神社は、富士山本宮富士浅間大社、北口本宮富士浅間神社、須山浅間神社、村山浅間神社、山宮浅間神社、河口浅間神社、富士御室浅間神社の7つです。

神々の系図



*ワニとは海の怪物
*天津神とは天にいた神であり、国津神とは地上で日本を治めていた神

須走富士浅間神社・富士講

神社とともに歩んできた須走。須走の最盛期は富士講の修験者が多く訪れていた時代です。

富士講の映像は⇒
 富士山須走口と富士講
https://youtu.be/ue_4DrR3NAc



浅間神社の参拝作法

ちようずしや

須走富士浅間神社は手水舎が参道の左側にあるので左側通行です。参道の真ん中は神様が通る場所です。お参りする時は、手水舎で両手や口を清め、鳥居や神門を通るときは軽く会釈します。社殿の前で一礼し、鐘を鳴らし、賽銭で気持をお供えし、二礼二拍手一礼。そして願掛けします。

手水の作法



右手でひしゃくにて水をくみ、左手をすすぎます。



ひしゃくを左手に持ちかえ、右手をすすぎます。



再び、ひしゃくを右手に持ち、左手の手のひらに水を受け、口をすすぎます。(ひしゃくにて口につけません)



もう一度左手をすすぎます。最後にひしゃくを立て、残った水でひしゃくの柄を流して、元の位置に置きます。

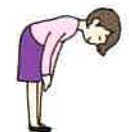
お参りの作法



まず2回深く頭を下げます。(その深さは、腰を90度に曲げる程度が美しいとされています。)



右手を少し下にずらして2回手を打ちます。両手の指先を揃えて、祈りを込めます。



最後にもう一度深く頭を下げます。



富士講とはなに？

江戸時代に盛んとなった富士山を信仰する民間の宗教です。関東が中心で「講」をつくり、講の代表者が毎年富士登山を行いました。江戸時代には千を超える講があったといわれましたが、現在はほとんど見られなくなりました。須走富士浅間神社内には富士講関連の石碑が70基以上あります。



「講」ってなに？

同じ信仰を持つ人の集まりのことです。富士山を信仰する人が集まるので「富士講」といいます。富士山に登る時は「六根清浄」とかけ念仏をかけながら登りました。



「六根清浄」の意味は？

六根は人の五感と「心」のことです。

「聞く 匂う 味わう 見る 触る」に「心(想い)」を加えた六感です。大自然のなかで人間の小ささを体感し、神仏や自然に畏怖の念をもつ事。そして自分の存在を清らかにしてくださいと何万回も唱え、願いながら登頂します。

ゆっくりとしたペースで唱えながら登ることは4000m級の富士山でおこる高山病の発症を抑える効果もあるといわれています。

富士講とは



富士登山は、女性、子ども、高齢者は行けない、憧れの旅でした。



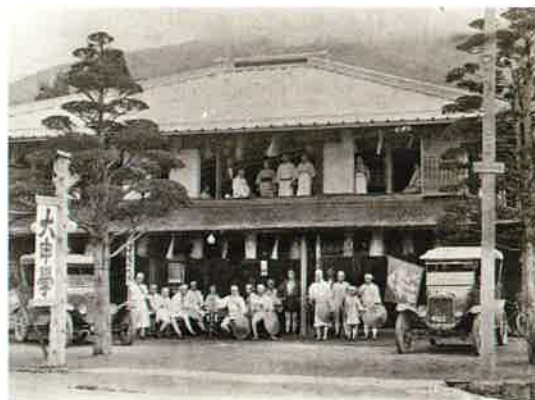
みんなの代表者が富士登山へでかけました。



行けない人たちの分もお参りしてもらうため、講をつくり、みんなで旅のお金を出し合いました。



富士山の息(風)にさらした掛け軸、土が入った御札などを持ち帰りました。



大申学 宿前



登山出発(登山道入り口)

須走地区・御師

宿場町であり、富士講を受け入れる御師の町であったのが須走地区です

地区の昔と今を知りたい⇒

富士山須走口 今昔風景
須走富士山 過去の記録と今
https://youtu.be/_XGpLICOGBc



昔の須走地区どんな町?

宿場町で御師の町でした。

標高800mにあるので農業には不向きな土地でしたが、鎌倉や駿河、甲州を結ぶ(鎌倉)街道の交通要衝で物資の運搬などで栄え、さらに富士山登山者を受け入れる町として発展しました。

浅間神社に真っすぐ向かう本通り沿いに集落がつくれ、今もその形を残しています。



御師とは?

参拝者と神様や仏様を結びつけることを職業とする宗教者です。

富士山信仰のなかで信仰を広めるために地方に出向き、訪れた参拝者には宿泊や食事を提供し、登山のための色々な備品や人員を手配するなどしていました。須走には1749年に17軒の御師が認められました。



須走の御師は現在もいるの?

江戸時代に認定された御師の多くは昭和の初めに旅館業に転業しています。現在でも大中学、小中学、米山館、扇屋の4軒が宿泊業を営んでいます。また、来た人をおもてなしする事業者や団体、個人を「須走御師」として地区全体を「御師」とする新しい取り組みも進められています。



鉄道が通っていたって本当?

馬が引く馬車鉄道が通っていました。

元禄4年(1691年)には馬が引く車が32台あったという記録があります。東海道線(御殿場線)の開通後、明治32年(1899年)に御殿場～須走間、34年(1901年)には籠坂峠まで馬車鉄道が敷設され、多くの富士登山者を運びました。



これができたら
須走御師に
合格じゃ〜!

おぼろし隊★ドリル 初級編

富士山について

- Q1 富士山は()箇所の構成資産とともに世界文化遺産に登録されています。
- Q2 須走には富士山の構成資産が()と()の2か所があります。
- Q3 富士山に神が宿る()の対象としてきた日本人の自然観が認められました。
- Q4 富士山を遠くから拝むことを()、登りながら拝むことを()といいます。
- Q5 富士山では強風で風下側にしか枝を伸ばせない()樹形の木々をよくみかけます。
難問

須走口登山道について

- Q6 須走口登山道の起点は()です。
- Q7 須走口登山道の特徴は()ごとに()があることです。
- Q8 登山道旧六合目から()年の銘が入った懸仏が出土しています。
- Q9 女人禁制の富士山。須走口では()まで女性が登れました。
- Q10 古御嶽神社に祀られている登山道を守る天狗の名前は()です。
- Q11 標高は()mの()は神の領域と人間の俗世の領域の境界場所です。
難問

須走富士浅間神社について

- Q12 ()年、噴火鎮火の祈願場所に須走富士浅間神社は建立されました。
- Q13 浅間神社の主祭神は富士山と桜の花の女神()です。
- Q14 この女神は()の孫の瓊瓊杵尊が一目惚れて妻にした程美しい女性です。

富士講について

- Q15 富士講は()時代に盛んとなった富士山を信仰する民間宗教です。
- Q16 富士山を登る時唱える「六根清浄」とは人の五感とあとひとつは()です。
- Q17 富士講参拝者と神仏を結びつける宗教的な職業を()といいます。

須走地区・御師について

- Q18 須走御師は、1749年に()軒が認められましたが()との兼業でした。

須走御師で旅館業に転業し、今も続いている家が()()()()の4軒があります。

- Q19 米山館は()大夫、大中学は()
難問 大夫と御師は大夫とよばれていました。

- Q20 須走地区は御師の町であり、駿河と甲州を結ぶ交通の要衝の()町でした。

登え:01/25 Q2/須走口登山道、須走富士浅間神社 Q3/信仰 Q4/還拜、登拜 Q5/風衝(ふうしやう) Q6/須走富士浅間神社 Q7/合目、神社 Q8/1384 Q9/御妻浅間神社 Q10/富士山太郎坊 Q11/1350、馬返し Q12/807年(大同2年) Q13/木花咲耶姫命(コノハサクラノミコト) Q14/天照大神 Q15/江戸 Q16/心(こゝろ) Q17/御師 Q18/17、百姓(百姓兼帯の御師) 大中学、小中学、米山館、扇屋 Q19/扇(大夫)、久(大夫) Q20/宿場